

The

K U S

KOBE UNIVERSITY



its Growth,

Organization
and

Activities

新 入 生 諸 君 へ

桜花らん漫—— 清新の気澁刺たる新入生諸君の御入学を心からお祝い申し上げます。昨年にも増して激しい入試を突破した諸君は今や喜びに胸を膨らませていることでありましょう。どうかこの感激を忘れずに人生において最も楽しい大学生活を有意義に過されんことをお祈り致します。

有意義なる大学生活—— 勿論自己の研究に没頭する事でありましょうが、その他に余暇を見出し志を同じゆうする者相集いて、互の専門分野を超越した団体に参加してみても如何でしょうか。

「神戸高商語学部」より半世紀に亘る歴史と伝統を有する我が「神戸大学 E. S. S.」は、広く諸君の前にその門戸を開いております。

即ち英語を愛好するものの集いなのであります。

今や文字通り国際語となつている英語を理解することは、我々にとって常識であり、英語を理解することなくしては現在我々の目前に展開される世界の動きを正確に把握することは困難であると云つても過言でないでありましょう。しかし我が E. S. S. は決して英語学校的存在ではありません。英語を愛好するものが共に集り、英語を読み、話し、聴き、英語で物事を考え、眺め、そして英語を enjoy することによつて高い見識と広い世界観を涵養する事を目的とする団体なのであります。

時正に春、間もなく若葉の萌え出ずる新緑の候となるでありましょう。あの若芽の萌え出ずる山路を歩いてみてごらん下さい。強い紫外線を受けて、我々に強い希望と励みを与えて呉れるあの山路を——。我々は今、神戸大学 E. S. S. にも若芽の如き強い力の湧き出ずるのを待っています。希望あふるゝ新入生諸君の積極的入部を我々部員一同心から歓迎致します。

1955 年 4 月

渡 辺 浩 次

"Outline of the E.S.S., Kobe University"
April 1955

Published by
The E.S.S. of Kobe University

Edited by
Kunihiko Yamamoto

I 概要

神戸高商「語学部」(Foreign Language Dept.)以来過去半世紀に亘たる輝かしい歴史を誇る「神戸大学E.S.S.」は、本学に於て最も活潑なる課外活動(extra-curricular-activity)であるのみでなく、全国各大学の同種「E.S.S.」「英語会」「語学部」「国際部」などの中、名実ともに最優秀の部に属すると自負している。「神戸大学E.S.S.」は浮薄な「欧米崇拜主義」の涵養の場であつたり或いは、単なる「通訳養成機関」でないことはいうまでもない。英語を真に愛好する各学部学生有志が、一つになり、共に英語をenjoyする処であり、狭義には、あらゆる事態を、英語を通じて研究すること、広義には、English Speaking Peoplesとのmutual understanding trust, そしてfriendshipを深めてゆくことを目的としている。勿論この目的達成のためには、会話のmasterも必要であり、作文も、演説も、そして外国mannersの研究も重要である。要するに、目的と手段の明確なる把握が肝要である。現在、外人教授の少いこと、各学部の分散せること等、種々のhandicapsを負わされているが、我がE.S.S.は、あくまで各memberの積極的意志に基き、向上を目途して可能な限りの活動をなし、かくの如き諸々の困難を克服しつつある。現在までに、数度にわたり「国際会議」を主催し、阪神在住の外人や各大学E.S.S.代表を招待したる他、J.S.A., I.S.A.主催の「日米」「国際」の同学生会議には、代表多数を送つて、阪神居住の外人その他より、「活潑なる「Kobe E.S.S.」として知られている。現在、会員は、各学部総計約150名で

あり、O.B.との緊密なる連携の下、発展の途を辿っている。

II 沿革

(A) 「神戸高商・語学部」— 神戸大学E.S.S.は、神戸高商時代の語学部に端を発する。当時、既に、activeなClubとして広く認められていた。

(B) 「神戸商業大学E.S.S.」

○ 英語雄弁大会

毎年「全国高専英語雄弁大会」を主催。その他、全国各地で開催されたものに参加し、優秀な成績を収めた。

○ 語学大会

英、仏、独、華語劇、英会話競争など。

○ 三商大交歓会

東京、大阪、神戸、三商大E.S.S.の交歓会

○ 講演旅行

夏季休暇に、地方の商業学校へ講演旅行を行い、英語研究普及に努めた。

○ 「日米」「日比」学生会議(J.S.A.)に参加。

○ 日常活動

英会話練習、Speechの訓練、輪読会、討論会を行つた。

(C) 「神戸経済大学E.S.S.」

○ 1945年、県下大学、高専にて「E.S.C.」(English Speaking Club)を結成。加盟校は、神経大、同予科、同専門部、神戸女学院、関学、神商大、甲南高、占領軍に能、舞ようなど日本文化を紹介。

○ 1949年、第一回県下新制高校英語弁論大会、主催。

○ 1951年9月、新制、旧制各E.S.S.の合併。

(D) 「神戸大学E.S.S.」

○ 1949年7月、「English

Speaking Society」として発足。

講演会、会話練習、「The E. S. S. Times」発行、海外文通、などを行つた。

○ その後、会員の総意で、「English Study Society」と改められた。

○ その他、「Conversational Contest」I. S. A. 主催日米学生会議への参加、国際討論会の開催、I. S. A. 主催国際会議への参加等、活潑な活動が行われた。

○ 1954年9月、旧制E. S. S.と合併。同年4月発足の教育学部「English Circle」及び文科、同種クラブも、12月に合流。「姫路分校E. S. S.」も後に合併、統合的活動が行われるに至つた。

III 機構

(1) 会員 (members)

英語を愛好しE. S. S.の目的に賛同する神戸大学学生は誰でも参加することが出来る。会員はE. S. S.の全活動に参加することが出来、The E. S. S. Timesの配布を受ける。会員は何時でも役員に対して自由に批判し、提案をなして、それに対する当事者の明確な回答を求める事が出来る。

会員は所属学会により、各支部に所属しなければならない。

(2) 本部 (headquarters) 及び支部 (branches)

E. S. S.本部は之を便宜上六甲校舎に置き、以下住吉(教育学部)、御影(ジュニア、文学部、理学部)、姫路(ジュニア)と各支部に分け、相互に連絡を保ちつつ、經常活動を行う。各支部の leader は幹事 (chief secretary) として、各支部の日常活動の責任に当る。

(3) 会長 (President)

会長は「神戸大学E. S. S.」の最高責任者であり、任期は一ケ年とする。

(4) その他の役員

(A) 副会長 (Vice President)

六甲本部より一名選出され、会長を援助し、六甲の日常活動の責に任ず。任期は一ケ年とする。

(B) 渉外委員 (Public Relations Secretaries)

会長の委嘱により数名が選出され、対外活動の円滑化を図るため渉外に関する全責任を負う。

(C) 幹事 (Chief Secretaries)

各支部に於いて幹事一名が選出され、任期一年間の日常活動の全ての責任を負う。

(D) 会計 (Secretary of Treasury)

本部及び支部には夫々一名の会計がおかれ、会費の徴収を始め出納事務を行う。E. S. S.全体の会計は六甲本部会計が担当する。

(E) 会長秘書 (President's Secretary)

会長より直接委嘱され、その要請により会長を援助しなければならない。

(5) 編集委員 (Editors)

E. S. S.は隔月に「The E. S. S. Times」を発行する。編集長は会長により任命される。編集委員は編集長の委嘱による。

(6) 記者 (Reporters)

記者は編集長により任命される。

(7) 顧問 (Advisors)

顧問は原則として神戸大学教授中より会長が委嘱する。顧問はE. S. S.の活動に関し、援助、指導及び勧告を与える。現在顧問は次の七名である。

- Professor Roy Smith
神戸大教授 B.A.,
M.A., M. Com. Sci.
- 宮田喜代蔵氏 神大経済学部長
経済学博士
- 大塚俊郎氏 神大経営学部助教授
- 二宮尊道氏 神大文学部助教授
- 植木敏一氏 神大教育学部講師
- 山岸光夫氏 神大文学部
- 山田金作氏 神大経営学部事務長

参加の為、本学より松本一三君(経済4年)を米国に派遣。

- (12) 11月 高校会話コンテスト主催
(於六甲台)
- (13) 12月 第5回三商大(一橋大・大市大・神大)交歓英語討論会(於六甲台)

○ 日常活動

1. Daily Conversation
2. Games 3. Discussion
4. Debate 5. Ques. Club(於スミス教授宅)
6. Bible Class(於スミス教授宅、御影分校、姫路分校)

○ 次に新入会員諸君を迎えて、愈々充実さるべき、今期の活動予定の概略を示せば次の通りである。

- 新入会員歓迎会
- 神戸商大との交歓討論会
- 国立四大学英語討論会
- 近き大学デイベイト・コンテスト
- 阪神大学英語ドラマ・コンテスト
- 関学との交歓討論会
- マ杯学生英語弁論大会学内予選
- I.S.A.杯英語弁論大会参加
- 国際会議主催：O.B.との交歓会
- 神戸女学院との交歓討論会
- I.S.A.主催：国際学生会議参加
- 尙、10月にはスミス杯高校会話コンテスト、12月には三商大英語討論会(於一橋大)が予定されている他、多彩なスケジュールが組まれている。

IV 活動

過去一ケ年の活動を、対外活動と日常活動とに区別して示すならば次の通りである。

○ 対外活動

- (1) 1954年5月 阪神大学招待英語討論会(於御影分校)
- (2) 5月 神戸外大との交歓討論会(於神戸外大)
- (3) 5月 国立四大学英語討論会(於阪大)
- (4) 6月 近き大学デイベイト・コンテスト(於六甲台)
英文毎日後援。神大準決勝にて惜敗
- (5) 6月 I.S.A.杯英語弁論大会参加(於神戸女学院)
- (6) 7月 国際会議(於六甲台)
- (7) 7月 県下高校英語弁論大会主催(於姫路分校)
- (8) 7月 マ杯学生英語弁論大会近き予選参加
——毎日新聞社主催(於毎日新聞社)
- (9) 7月 国際学生会議参加——I.S.A.主催(於関学京大)
- (10) 10月 スミス教授帰朝歓迎会
- (11) 11月 日米学生会議(ISA共催)



編集後記

以上の華やかな対外活動も、他面地道な日常活動により支えられていることは云う迄もない。学舎の関係上、会員が分割されているので、統合的活動は必ずしも容易ではない。日常活動は主として各支部毎にPrinciple Of Autonomyに基き行われているが、各支部間の会員の往来は可能な限り行われ、個別的活動の相互連絡が期待されている如く、統合化への努力が払われている。

更に、各大学E.S.S.を母体として発展したI.S.A. (The International Student Association of Japan)の活動にも積極的に参加し、大なる成果をあげている。I.S.A.は全国的組織をもつた団体であつて、地理的に数ヶの支部に分けられ、神戸大学は神戸支部に属している。

桜花らん漫の春の訪れと共に、今や、新たに清新の気潑刺たる諸君を御迎えすることになつた。過去半世紀にわたる長い伝統と、先輩諸氏の残された数々の成果に、強固に打ち固められたる「神戸大学E.S.S.」は、こゝに完全な制度的存在として、文化部中最大の倶楽部となるに至つた。希望に満ち溢れる諸君に、E.S.S.が如何に素晴らしいクラブであるかを、よりよく理解していただくために、このパンフレットの発行が試みられたのである。E.S.S.が諸君に望むところは、若さと積極性と純真さにあり、単なる会話能力ではない。大学四年間という、人生で最も楽しく、思い出深き期間の拠り所たる、意義深き、社交機関である。我々全ての全員は、新鮮なるアイデアを有し活潑なる諸君の入会を心から待つものであり、現会員と一致協力して、向上への道を共に進まれんことを期待する。

1955年4月

山本久仁彦記

学園のプリント物には
手書ガリ版は時代遅れです
英国製高輪轉器により
数萬枚即日～翌朝納品可能

活字プリント・現像印刷

欧文印刷なら校正の手間をとらせません

若草 翻譯出版印刷社

栄町2電停前④-1723

若き経営者の